

# 連携先世界遺産： 醍醐寺

本科目が取り組んだ課題・改善事項

## 建物から見た近代の醍醐寺の復興を再評価する パネルの作成

### ■ 受講生

藤村 紘之 (京都橘大学・文・4)

### ■ 担当教員

登谷 伸宏 (京都橘大学・文学部・助教)

## 活動目的・概要

**目的**：建物から見た近代の醍醐寺の復興を再評価し、醍醐寺の近代の建築物についても知ってもらう。

**概要**：醍醐寺境内には様々な建築物が存在します。下醍醐には五重塔・金堂・仁王門、上醍醐には薬師堂・清瀧宮拝殿などがあります。それらは国宝・重要文化財に指定され、歴史的・建築的に高く評価されています。それとともに、境内には、それら以外にも近代に建立されたものも多数現存します。なかでも、下醍醐の大伝法院と呼ばれる区画には、昭和期に建立された建築物が多く存在します。

しかし、それらは醍醐寺の復興という重大な出来事と密接に関係があるにもかかわらず、評価の対象となってきませんでした。近代の建築物は、古代や近世に建立されたものと比べれば歴史は浅いですが、歴史的・建築的価値は大いにあります。今回は、それらを再評価すべきであると考え、醍醐寺の建築物を調査しました。それとともに、醍醐寺を訪れる方々にも詳しく知ってもらうことを目標として、近代の建築物を知ることが出来るパネル作成に取り組みました。



調査風景



観音堂



不動堂鬼瓦刻銘

### ◆ 主な活動

2017. 4. 22 ガイダンス

2017. 5. 28 全体オリエンテーション

2017. 6. 17 醍醐寺建築物に関する調査 (1回目)

2017. 8. 4 醍醐寺建築物に関する調査 (2回目)

2017. 8. 11 醍醐寺建築物に関する調査 (3回目)

2017. 9. 5 醍醐寺観音堂に関する調査 (4回目)

2017. 10. 調査のまとめ (自主活動)

2017. 11. 15 醍醐寺建築物に関する調査 (5回目)

2017. 11. 16 成果物作成に向けた準備

2017. 11. 18 発表準備

2017. 11. 27 成果発表準備

2017. 12. 7 世界遺産保持者に成果事前発表

2017. 12. 10 成果発表

2017. 12. 成果物作成

## 活動の成果

## 醍醐寺建築物一覧パネル

調査の結果、醍醐寺の境内の約7~8割が明治以降の建造物であり、近代の建物ということは廃仏毀釈により財政難になった醍醐寺が復興する際に寄進、建立されたとも考えられます。であれば近代の醍醐寺を知るうえで必要不可欠なものであり、財政難後醍醐寺がいかに復興してきたかの手掛かりとして無くてはならないものであると分かり、重要性がわかったことによりこれらの建物の再評価及び現状の保存が必要であると考えました

またこの重要性を知ってもらうために「醍醐寺建築物一覧パネル」の制作を考えました。

「醍醐寺建築物一覧パネル」は醍醐寺の伽藍がわかる地図に近代建築物の写真と簡単な解説をのせ、各建物には番号をふり、名前と概観の一致やその建物の役割や歴史的価値が見てわかるパネル作成を行う予定で、現在制作中ですが平成29年度中には完成予定です。醍醐寺に来られる方により詳しく醍醐寺の建物を知ってもらえるパネル製作を目指します。

## 醍醐寺近代建築物リスト

名称	所在地	建立年代	設計者	形式	典拠	特徴
報恩院門	下醍醐	19世紀前半		薬師門、切妻造、棧瓦葺		両側に土塀あり、横に戸があり、桐の装飾が多い。
報恩院本堂	下醍醐	19世紀前半		正面五間、側面三間 入母屋造、棧瓦葺		基壇上に建てられていて、正面には部が入る。内部は二部屋に分かれ、一部屋が護摩部屋となる。
旧光台院本堂	下醍醐	昭和3年	1928 清水六郎太	正面三間、側面三間、入母屋造、向拝 一間、背面軒下張出付、棧瓦葺	棟札（『京都橋大学 歴史 遺産調査報告 2013』）	小規模な仏堂。装飾は少なく、端正なつくり。 軒は一軒半整垂木。垂木は先端に強い反りを持ち、下端にやや大きな面を取る。
清瀧宮拝殿	下醍醐	昭和4年頃	1929	正面三間、側面三間 入母屋造、本瓦葺	『京都府庁史料』	装飾の少ない建物で、内部は一室である。地垂木先端に大きな反り増しを付ける。
鐘樓堂	下醍醐	昭和4年	1929	正面三間、側面三間、本瓦葺	鬼瓦銘	高い基壇の上に立つ。腰貫・飛貫の木鼻は大仏様木鼻である。 醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞によって寄進されたことされる。
恩賜館	下醍醐	昭和4年 移築	1929	木造、平屋建、入母屋造、正面車寄、 切妻造、棧瓦葺	扁額	車寄の中備に大きな左右対称の幕股を入れる。室内は簡素である。 昭和大礼に用いられた建物を下賜される。
茶廊	下醍醐	昭和4年 移築	1929	木造、平屋建、入母屋造、棧瓦葺		小規模で簡素な建物。内部は大きく改造される。
日月門	下醍醐	昭和5年	1930 安井楢次郎	三間一戸、八脚門、本瓦葺	鬼瓦銘	小規模な八脚門。大瓶束や壘股などに豪華な彫刻が施される。
観音堂（旧大講堂）	下醍醐	昭和5年	1930 安井楢次郎	正面五間、側面五間、背面軒下張出、 宝形造、本瓦葺	擬宝珠銘	大規模な仏堂。高い基壇の上に立つ。左側に圓伽藍があり、窓は蓮子窓である。 内部は中央に四天柱を立て、内部に大壇を設ける。正面奥に須弥壇を置き、本尊を設置する。 醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
弁天堂	下醍醐	昭和5年	1930 安井楢次郎	正面一間、側面二間 宝形造、鉄板葺		小規模な仏堂。軒の出が大きい。相輪が凝っている。 醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
行者寮	下醍醐	昭和5年	1930	正面三間、側面六間、切妻造、棧瓦葺		大規模な建物。装飾は少ないが、側面に花頭窓が五つ並んでいる。 醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
阿闍梨寮	下醍醐	昭和5年	1930	木造、平家建、棧瓦葺		中規模な建物。全体的に装飾は少ないが、懸魚に鯉と思われる装飾がある。瓦当面のデザインが 凝っている。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
不動堂	下醍醐	昭和5年	1930 安井楢次郎	正面三間、側面二間 入母屋造、本瓦葺	鬼瓦銘	中規模な仏堂。奥に三つ並び仏壇あり。仏壇上の小壇に大ぶりな壘股を入れる。 醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
北倉	下醍醐	昭和7年	1932 大江新太郎	R C造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物がつぎ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
中倉	下醍醐	昭和7年		R C造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物がつぎ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
南倉	下醍醐	昭和7年	1932 大江新太郎	R C造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物がつぎ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
董室館	下醍醐	昭和10年	1935 大江新太郎	R C造、平屋建、入母屋造、正面千鳥 破風、正面車寄、唐破風造、本瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	書院造の御殿を模したデザイン。壁にはそれぞれ大きな桐の紋が付く。
五大堂	上醍醐	昭和15年	1940	正面五間、側面四間 入母屋造、棧瓦葺	『醍醐寺大観』	腰高な印象を受ける。自然石の基壇の上に建つ。頭垂木、軒の出が大きい。
鐘樓	下醍醐	昭和初期		正面一間、側面一間 入母屋造、棧瓦葺		小規模な建物。頭貫木鼻は削り抜き。
南大門	下醍醐	昭和初期		高麗門、棧瓦葺		小規模な建物で、装飾がほとんどない。柱の面取りは大きい。
土蔵	上醍醐	昭和初期		土蔵造、切妻造、棧瓦葺		小規模な建物で、装飾はほとんどない。正面に庇を付ける。
醍醐水井戸館	上醍醐	昭和後期		正面一間、側面二間 入母屋造、棧瓦葺		柱が土台に乗っている。正面は吹き放ち、正面に台輪を回して飾っている。

（参考文献）廣岡幸義「安井楢次郎と山口玄洞 亀岡寺作品研究 その3」（『平成17年度 日本建築学会近畿支部研究報告集』2005年）



弁天堂



報恩院



不動堂



## 活動を振り返って

今回、京都世界遺産PBLで建築物をテーマにして活動する中で、建築物を歴史的事柄に結び付けて評価し、歴史的価値を広く周知・活用し、周りにわかる形に残すことの難しさを体感しました。またそのための成果物作成を一人という、限られた人数で行えることを模索し、対象や目標が明確にわかるものを作成することにもかなりの苦労を強いられました。

しかし、醍醐寺の建物の調査やまとめを行い、醍醐寺の建築物について詳しく知ること、魅力に気づき、その魅力を多くの人に知ってほしいという思いから苦労がやり甲斐に変わりました。

私の活動を通して、出来たことは小さなことかもしれませんが、多くの人に醍醐寺の近代建築について知ってもらうきっかけになればと思います。

## 担当教員からのコメント

### 登谷 伸宏

本年度は、受講生が一人であったため、教員の提案した「醍醐寺の境内を再評価する」というプログラムに対して、学生がいかに作業を進め、一定の成果を上げることができるのか、という部分を重視した授業を展開した。

学生とともに醍醐寺境内を踏査するなかで、境内には金堂や五重塔など文化財としての評価が定まった建物の他に、どのような建物が建っているのかを記録し、リストにするという作業を行った。

学生が、調査を行う過程で境内に近代以降の建物が多いことに気づき、①それらの持つ文化財としての価値を参拝客に広く知ってもらうこと、②そのために近代以降の建物の一覧とその写真をパネルとすることを目標とできたことは、大いに評価できる点だと考える。

その一方で、学生一人が授業において行える作業は非常に限られたものであり、各建物について詳細に評価することができなかったのは非常に残念な点である。



# 活動資料

## 調査建物一覧表(平成29年12月現在)

名称	所在地	建立年代	設計者	形式	典拠	特徴
西大門(仁王門)	下醍醐	慶長10年	1605	三門一戸、棧門、本瓦葺	『醍醐寺大観』	三門棧門としては最大級の大きさである。桁行中央柱間は上下階で一致する。豊臣秀頼が金堂の再建後に再建した。
金堂	下醍醐	慶長5年	1601	正面七間、側面五間 入母屋造、本瓦葺	『醍醐寺大観』	建物自体は大きく、壁は白い。柱間の大きい一間通りを礼堂と奥行三間が内陣とされている。豊臣秀吉の命により当時の紀州(和歌山県)淡路から移築され、秀頼の時代に完成した。
鐘樓	下醍醐	昭和初期		正面一間、側面一間 入母屋造、棧瓦葺		小規模な建物。頭貫木鼻は例外抜き。
五重塔	下醍醐	天曆6年	952	五重塔、本瓦葺	『醍醐寺大観』	基壇上に建てられ縁を設けていない塔。軒の出が深い。相輪が大きく、塔身に比べて長く横欄も広い。ため安定している。
南大門	下醍醐	昭和初期		高麗門、棧瓦葺		小規模な建物で、装飾がほとんどない。柱の取組は大きい。
清瀧宮拝殿	下醍醐	昭和8年	1933	正面三間、側面三間 入母屋造、本瓦葺	『京都府庁史料』	装飾の少ない建物で、内部は一室である。地重木先頭に大きな反り増しを付ける。
清瀧宮本殿	下醍醐	永正14年	1517	三間社流造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	彩色が派手である。身舎の柱は円柱で、柱上に舟針木を置き軒を受ける。軒は二軒簷垂木である。
不動堂	下醍醐	昭和5年	1930	安井橋次郎	鬼瓦銘	中規模な仏堂。奥に三つ並び仏壇あり。仏壇上の大塚より多数敷を入れる。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞によって寄進されたと思われる。
祖師堂	下醍醐	昭和後期		正面三間、側面二間、背面一間 入母屋造、本瓦葺		中ぐらいの大きさの建物で、内部は小規模天井であり、空海と聖宝が祀られている。灯籠に書かれた時代により昭和58年に修理完了のと考えられるが木材が新しいと考えられる。
行者寮	下醍醐	昭和初期		正面三間、側面六間、切妻造、棧瓦葺		大きな建物で、装飾は少ないが側面に花頭窓が五つ並んでいる。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
日月門	下醍醐	昭和5年	1930	安井橋次郎	鬼瓦銘	小規模な八脚門。大塚東や多数敷などに豪華な彫刻が施される。
鐘樓堂	下醍醐	昭和4年	1929	正面三間、側面三間、本瓦葺	鬼瓦銘	高い基壇の上に立つ。腰貫・覆貫の本鼻は大仏様木鼻である。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
観音堂(旧大講堂)	下醍醐	昭和5年	1930	安井橋次郎	海宝珠銘	大規模な仏堂。高い基壇の上に立つ。左側に開加間があり、窓は蓮室である。内部は中央に四天王を立て、内部に大塚を設ける。正面奥に須弥座を置き、本尊を設置する。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
阿闍梨寮	下醍醐	昭和初期		木造、平家建、棧瓦葺		中規模な建物。全体的に装飾が少ないが、懸魚に類と思われる装飾がある。互当面のデザインが凝っている。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
弁天堂	下醍醐	昭和初期	安井橋次郎	正面一間、側面二間 平形造、鉄板葺		小規模な仏堂。軒の出が大きい。相輪が凝っている。醍醐天皇一千年御忌の際に山口玄洞の寄進により建てられた。
唐門	三宝院	慶長4年	1599	三間一戸平門、唐破風造り、檜皮葺	『醍醐寺大観』	前面に切石積基壇、縦い石段四段を造り、左右は築地塀に連なる。唐唐柱に立ち、敵敵・方立・欄を入れ、冠木をつける平成22年に修復が行われている。
表書院	三宝院	慶長4年	1599	正面五間、側面十二間 入母屋造(象殿は切妻造)、棧瓦葺	『醍醐寺大観』	東から西に三間が一列に並び、南西に象殿(中門)が付設されている。各部屋の境の内法柱上には張欄間をはめ、部屋、広縁間の外側は舟針木で、垂木は一軒の椽垂木。
勅使の間 秋草の間 葵の間	三寶院	慶長18年	1613		『醍醐寺大観』	勅使の間は南側に一間隔の広縁を付け、中央に檜皮葺の唐破風で秋草の間に対応する側に車寄を付けている。秋草の間は秋草の間から横を隔てて台式台を設ける。内部は三室とも内法長押、欄間とし、茅葺天井を張る。
玄閣	三寶院	安永7年	1779	正面七間、側面六間、 切妻造、妻入本瓦葺	『醍醐寺大観』	矩形の平面を持ち、中央南側に張り出して車寄せが取り付く。棟は南北に通り、車寄せは檜皮葺で上部の屋根は唐破風造とする。北側には平間造の土庇が付設される。
宸殿	三寶院	慶長3年	1598	正面六間、側面七間半 入母屋造、棧瓦葺	『醍醐寺大観』	表書院の北東に位置し、縁で繋がり、北は白御厨に連続している。妻は郭格子に造り、梅鉢懸魚を付す。内部の部屋境はいづれも奥障子の障壁面を張る。
白書院	三寶院	慶長19年	1614	東:正面七間、側面十一間 入母屋造、棧瓦葺 西:正面七間、側面六間、 切妻造、妻入本瓦葺	『醍醐寺大観』	二つの建物に分かれ、東側三間半、西側七間半ある。東は七間半と八間の二部屋を中心にして、東側に一間隔の入閣を設ける。西は二間半四方の六部屋に分割している。南北に人懸縁をもつ。
純淨観	三寶院	慶長3年	1598	正面七間、側面四間、 入母屋造、妻入、茅葺	『醍醐寺大観』	表書院側を正面とし、棟を池に平行に構える開放的な建物。棟葺の庇を設けるが、庇柱が無く側桁を支点に括木をだし、それを地重木、椽垂木を布る構造になっている。
護摩堂	三寶院	昭和・安永年間		正面三間、側面二間 入母屋造、妻入	『醍醐寺大観』	西側に縁をめぐらし、正面に一間の向拝、背面全長に二間の葺下し庇を付加する。切目長押、内法長押、内法直で幅部を固め頭貫は入れない。材料は慶長期のものが使われている。
雨月茶屋門	下醍醐	19世紀前半		檼門、切妻造、棧瓦葺		両側に土層あり。扉の位置を下げた跡がある。
恩賜館	下醍醐	昭和4年移築	1929	木造平屋建、入母屋造 棧瓦葺、車寄せ	扁額	車寄の中腹に大きな左右対称の墓敷を入れる。室内は簡素である。昭和と大に用いられた建物を下賜される。
茶室	下醍醐	昭和4年移築	1929	木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺		小規模で簡素な建物。内部は大きく改修される。
報恩院門	下醍醐	19世紀前半		薬医門、切妻造、棧瓦葺		両側に土層あり。横に戸があり、欄の装飾が多い。
報恩院本堂	下醍醐	19世紀前半		正面五間、側面三間 入母屋造、棧瓦葺		基壇上に建てられていて、正面には扉が入る。内部は二部屋に分かれ、一部屋が護摩堂となる。
南門	下醍醐	18世紀中頃		高麗門、切妻造、棧瓦葺		正面柱の風食が大きい。
日光院本堂	下醍醐	昭和3年	1928	清水六部太	棟札(『京都福文化 歴史遺産調査報告 2013』)	小規模な仏堂。装飾は少なく、端正なつくり。軒は一軒平簷垂木。垂木は先端に強い反りを持ち、下側に空を大きな庇を張る。
長尾天満宮本殿	下醍醐	文政4年	1821	三間社、流造、銅板葺		銅板の装飾が豪華だが背面はおとなしい。風蝕が大きい。
北倉	下醍醐	昭和7年	大江新太郎	RC造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物が三つ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
中倉	下醍醐	昭和初期	大江新太郎	RC造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物が三つ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
南倉	下醍醐	昭和7年	大江新太郎	RC造、二階建 切妻造、棧瓦葺	『建築雑誌』604、1935年	北倉・中倉・南倉と同じ形式の建物が三つ並んでいる。いずれも高床式で土蔵造である。
収蔵庫	下醍醐	昭和		RC、寄棟、棧瓦葺		渡り廊下あり、仏像様あり。
宝室館	下醍醐	昭和10年	1935	大江新太郎	『建築雑誌』604、1935年	書院造の御殿を模したデザイン。壁にはそれぞれ大きな欄の紋が付き。
成見院(女人堂)	下醍醐	昭和初期		正面四間、側面四間 入母屋造、棧瓦葺	『京都福文化2014年度調査報告書』	正面に向拝、懸魚に彫刻がある。装飾は少ないが地重木に強い反りしを付ける。また椽垂木を地重木に対して一本おきに配す珍しい配置をしている。
五大堂	上醍醐	昭和15年	1940	正面五間、側面四間 入母屋造、銅板葺		慶高印象を受け、自然石の基礎の上に立つ。扉垂木、軒の出が大きい。
鐘樓	上醍醐	昭和後期		正面一間、側面一間 切妻造、棧瓦葺		自然石の基礎の上に立つ。装飾が単純で苔が生えている。屋根は新しい。
如意輪堂	上醍醐	慶長11年	1606	正面五間、側面三間 切妻造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	自然石の基段の上に建っている。懸魚、装飾や組物が豪華。四周に切目縁を廻らせる。内陣、後戸周りは板壁、板戸で閉鎖的。
圓山堂	上醍醐	慶長13年	1608	正面五間、側面七間 入母屋造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	向拝に軒。南正面が唐破風で一間通りが吹き放ち。その後方が外陣で入閣に柱が立つ。その柱に沿って床が榻敷式となる。手扱が派手。供養あり。後ろの屋根は桁葺。
白山大権現	上醍醐	慶長11年	1606	正面一間、側面一間 流造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	自然石の基段の上に立つ。海老虹梁あり。装飾が派手。正面に木階五段を組み、浜床、浜縁を設ける。
土蔵	上醍醐	昭和初期		土倉造、切妻造、棧瓦葺		小規模な建物で、装飾はほとんどない。正面に庇を付ける。
薬師堂	上醍醐	保安2年	1121	正面五間、側面四間 入母屋造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	装飾なし。基壇の上にあり、規模が大きい。軒の出、垂木の反りが大きい。
醍醐水井戸	上醍醐	昭和後期		正面一間、側面二間 入母屋造、棧瓦葺		組物が単純。正面が吹き放ち。正面に台を回して飾っている。柱が土台に乗っている。
清瀧宮拝殿	上醍醐	永享6年	1434	正面三間、側面三間 入母屋造、檜皮葺	『醍醐寺大観』	建造。正面に唐破風。三間四方の形懸魚の装飾が派手で規模が大きい。組物は舟針木。軒は一軒で地は檜垂木。椽垂木はまばら垂木で、垂木は正面を面取している。
清瀧宮本殿	上醍醐	昭和32年	1957	三間社、流造		敷敷の装飾は精巧で、一間柱が二つ並んでいるようになり、規模は中ぐらい。
上醍醐寺務所	上醍醐	昭和初期		切妻造、銅板葺		規模は大きく、装飾は少ない。庇が側面についている。

(参考文獻) 廣岡幸義「安井橋次郎と山口玄洞 亀岡式作品研究 その3」(『平成17年度 日本建築学会近畿支部研究報告集』2005年)